



◇今回は、大野涼介さん（早稲田大学基幹理工学部応用数理学科）のレポートです！

失敗を今につなげる

こんにちは。私は、2018年1月現在、早稲田大学基幹理工学部の応用数理学科に所属している2年生です。これを読んでくださる方の中で、進路を考える、あるいは、成績、部活など様々な選択をする時、もし失敗したらどうしようって考えたことはありませんか？今回、過去に私が失敗や思い通りにうまくいかなかったことを経験して、その失敗から次の行動を起こしたことによって、今の自分にどうつながっているかお伝えしたいと思います。

私は高校2年生でオーストラリアに1年間留学していました。私はもともと英語が得意ではなく、むしろ苦手でした。文法はできるけど長文を読むと何を言っているのかわからないレベルでした。もちろん英会話もできませんでした。そんな私がなぜ留学に行こうと思ったかというと、高校受験の失敗からでした。高校は親にどこでもよいと言われていたのですが、どうしても岐阜の方の高校に行きたく、受験に挑戦しました。しかし、それはかないませんでした。

それから一般入試で関高校に入学して、高校生活をスタートさせました。ただ、自分の中には、「努力しても定員内で合格していった人達に実力で負けた」という感覚がずっとありました。このままだと自分は平凡に終わってしまうのではないかという危機感が根強く強くありました。それを払拭するために何かしたいけれど、どうすればよいかかわからない。そんな中、留学募集が学校でされました。これなら状況が変わるかもしれないと思い、留学を決意しました。



オーストラリア留学中、ドイツの留学生との旅行より（エアーズロック）

しかし、当時、関高では20年近く留学した人がおらず、未知の世界でした。親にも「大学で行った方がよいのでは？」という意見を言われましたが、心折れることなく説得し、親の承諾を得ることができました。そして、2012年の夏にオーストラリアへ出発しました。

しかし、現地に着いて直面したのは、自分は英語ができないという現実でした。最初は電子辞書を常

に持ち歩き、必要な時は筆談で会話をしていました。最初は物珍しさでいろいろな人から話しかけてもらっていましたが、だんだんそれがなくなってくると、いよいよ辛い時期がやってきます。そうなるからは、今でも覚えています、自分の部屋で会話のシミュレーションをしまくりました。自分がしゃべれる話題について徹底的に定型文を考えつくしました。また、それに対してどんな質問や返しをしてくるかも考えました。慣れてからはいつも一緒にいる人や家族の口癖や言い方をまねして自分の中に取り込んで自分の言葉にしていきました。英語ができる人からしたら想像もできないことかもしれません。これらのおかげで半年くらいしてからは人と楽しく話で盛り上がるようになりました。

この留学で、もともと理数系が得意で英語が苦手だった自分が、英語を得意分野にすることができました。今振り返ると、これによって選べるようになった進路選択は以前と比べて雲泥の差になったと思います。また大学に入学してからの英語の授業も帰国子女がたくさんいるクラスに振り分けられ、面白い人脈をたくさん作れました。この今の自分の状況は、受験で失敗を経験し、そこから何とかしようともがき、留学に挑戦するという行動によってもたらされた産物です。

高校受験、大学受験、浪人、成績。今まで、自分の思い通りに成功をつかんだことはまだ一度もありません。しかし、その失敗やうまくいかなかったことが次のアクションへの原動力となり、そのアクションから今の自分につながっているものがたくさんあります。というより、そのアクションのおかげで今の自分が成り立っています。

今の自分

高校生の時は、あの大学に行きたいという目標があり、それに対してやるべきことも決まっておろ、その目標に向かってテストの点数を指標にしながら自分の成長を感じ進んできました。人よりここが優れている、劣っているということもわかりやすかったです。しかし、大学に入ってから目標を失い、また自分が成長しているかどうかを簡単に知るための指標もなくなりました。そこで自分のやりたいことを真剣に考えました。

2年生後期くらいになってから、自分のやりたいことは「日本の中枢で社会または経済に大きな影響を与えることができるポジションで面白い仕事を死ぬまでやる」ことだと感じそれを目標にしました。かなり抽象的ですが、その目標に対して今やるべきことは明確にしています。

それは、自分が面白いと思ったこと又はやってみたいと思ったことを「思った」で終わらせずに実行に移すことです。具体的には、必修以外で面白そうな授業を取りに行ったり、外部のセミナーや海外研修に行ったりしています。今のところ、これらの行動が次につながったとわかるものはありません。何年後の自分がこれらの行動を振り返り、価値を見出してくれればいいと思っています。

少し余談になりますが、アニメ宇宙兄弟の主人公の難波六太のセリフにこんなものがあります。

「兄は常に弟の先を行かねばならない」。

私は男3人兄弟の長男ですが、このセリフにかなり共感します。大学受験を頑張る、大学生活で常に目標を持ち、成長し続ける意志を保つモチベーションはここからも来ていると思います。第二人に陰ながら感謝しつつ、今後も先を歩き続けられるよう努力します。(できれば圧倒的先に行きたい)

在校生のみなさんへ

高校も志望した通りに進学し、成績も思うように伸ばすことができている人もいますが、そうでない人もいます。失敗による劣等感やなかなか消えない不安など、負の感情を抱えることもあると思います。その感情をぜひ次の行動を起こす原動力にしてください。その原動力により起こした行動は必ず次の自分につながります。

時間があれば読んでみてほしい本

- ・ 塩野 誠『ポスト平成のキャリア戦略』幻冬舎
- ・ 千田琢磨『20代で身につけるべき「本当の教養」を教えよう。』学研

高校生の時に読んでもあまり面白くないかもしれませんが、大学生になって社会に出ることを意識し始める時に読んでみてください。



中国企業ファーウェイの中国研修より